繪本通俗三國志

六編

六

特
へ21
221
56

東京帝國大學圖書之印
貴
221
56

繪本通俗三國志六篇巻之六

目録

孔明五擒孟獲一
孔明六擒孟獲一
孔明七擒孟獲一

孔明五擒孟獲

孟獲蜀の陣を出て路を敗軍の士卒を集め数千人を引て走りけるを向ずり馬烟を立て一手の勢きたりけるを雑ぜらんと怪みゝる弟の孟優が兄の仇を報ぜんとて敗軍を率ひ来るちりければ二人手を執て哀み哭く孟優が曰く蜀の勢勝るの汐て其鋒き當るべらざる只山陽の洞中に入て其鋭気をさけすべ蜀の勢まの極熱を苦んでおのづから退くべし。孟獲が曰く。何ゑ入て避べきぞ。孟優が曰くまゑ西南の方ゑ禿龍洞といふあり。洞中の主を乃木思大王といふ其と交をまゐ深し。行てまの人を頼むべし。孟獲まゑ從ひ先孟優と禿童洞へ

遣さるに朶思大王その故を問てさらに一義にも及ばず。自ら兵を
引て孟獲をよく迎へ酒食を進て持なしけれバ孟獲が曰く。さる
孔明が辱を受。その故に大王を頼で身を安んぜんとおもふなりと。朶
思王が曰く。御心易くおもひ玉へ。若蜀の兵きたるとも来らバ我らはからず此
一人も生て回さんや。孟獲喜んで。その計を問に朶思王が曰く。此
所へ来るには。只二條の路あり。東北なる路ハ只今大王のきたる路之
地平に水甘して人馬通やすしといへども大木大石をもつて洞口
を塞とれバたとひ百万の勢にても通ること克ず。又西北の方なる
山路ハ岩石そびへて。鳥も翔がたく殊に毒蛇悪蝎の類おほくして晩
方より瘴烟起り巳午のときまで収らず唯未申酉三ときの間
往来なすべし。況やその路水なくして人馬えなへど行がたし。四ヶ所よ

に毒の泉あり一ッには唖泉と名く。その水をのめバ甘くして。人も
し飲ときハ言こと克ず。十日をまたずして必ず死す。二ッには
滅泉と名く。その水温にして湯のごとし。人もしこれに沐浴さ
れバ皮肉忽ち爛て骨を出して必ず死す。三ッには黒泉と
名く。その水きはめて潔く。人もし身にそゝぐときハ手足ミな黒
して必ず死す。四ッには柔泉と名く。その水あたかも氷のごとく。
人もし飲ときハ喉の内煖気さへ身綿よりも柔になりて忽
ちに死すとなり。この処には人ハ申に及ばず虫もなく鳥もなし。只漢の
世に伏波将軍馬援のこの所をわたりきたる古今いまだ英雄
も卒にこの路を通りたることなし。今東北なる大路を切塞ひ
で大王の御心を安からしめん。蜀の軍勢大路を切塞ひだる

とゝべ必ず西北の山路より進んで此途水なくして時いま極熱盛
なるゆへ喉渇ておのゝ〻彼四の毒水を飲一人も残らずせぶ
べし。何ぞ刀を抜とも用ひんと。実なるかな云けるゆへ孟獲
ゝ〻喜び手をもみて額をさゝげ。今日より身を安んずる
の地ありといよ〻〻天を仰ぎ笑ひ北を指ざして曰く孔明いま
ちる神機妙算もあるべあれ此四の泉をゝ日比の恨をも
もぐべしとて山より采思大王と日夜酒宴して居たりけるさる
程に孔明へ牧日孟獲がよせ来らざるを見て。西洱河の陣を
むかへ大軍南をさして進けるが時ゝとて六月なれば炎天の暑
気あるとかも焼ごとく忽ち早馬きたり。孟獲いま禿竜洞へ
げ籠て。路の要害を切塞ぎ。兵を分て固く守る嶺聳へ岩

峙ひて一足もゝむと克ずと。告ければ孔明もあはち呂凱をも
して安内を問ふ呂凱やけるゝ某ゝの禿竜洞ゝ二條の路あり
と。兼ねるのゝみて。委くゝ存じ居ぬ蔣琬が曰く。已ゝ孟獲を四度
まで生捉ゝ南蛮の軍民をぐく騰を冷を。争ゝ重祝。
中国を犯ゝ時いま暑気さかんなるゝ人馬ゝ疲ゝたり。
ゝまより。国ゝ回らんゝ志し。孔明が曰く。汝がんの如くせを是
孟獲が願ひなり。ゝ〻退ひて回らんとせば彼ゝ追ひ
のひて追討ん已ゝの不ゝ攻入安んぜ半途ゝして回らん再
び回らんといへゝの必ず斬んとて。王平ゝ殷百騎を授けて先
陣とし。降参の蛮兵ゝ路を引せて西北の小路より。進ませける
ゝ人馬ゝ渇して。傍ちる水を飲ゝの路條を孔明ゝ告んとて。

孔明
神翁の
教
諸將乃
死を免る
孔明
神翁

王平まづ本陣を引回しけるゞ皆言んとしても芦生ぢ。たゞ口をぱくと計なり。孔明大ゐにどろき扨ハ毒を中まるゐらんと。自ら車を打乗牧十人を引てきたりゐを川の泉あり。その水をあらゞ清して。深きと底ちく。水気凛こたりけるゆへ孔明車より下て。山を上り其辺を望ゐを四方の峯。屏風を立たるごとくみして。鳥の芦ゞゐきゐざりしゐんの内さらを安らゐゞ。遠く岡の上を。古き廟のあるを見付て。葛を取付藤を挙て石屋の内を到り。一人将軍の像あり。側を石を立碑の銘を刻とれゝ乃ちゐまを見るを漢の伏波将軍馬援ゞ廟なり。南蛮を平げく。その石ゐまで来しを土人その徳を感し廟を立て。ゐまを祀ると記せり。孔明再拝して曰く。ゐまを先帝の孤を託ゐる遺命をうけ後主の詔を承りて。ゐまを来り。南蛮を平げて。その心を服せしを。呉魏を滅ぼして。漢室を安んぜんと。計ゐるゐま手下の数地理ちゐまを。あやまりゐて毒水を飲ゐを芦を生ゐを克ゐを。望らく尊神漢朝を顧ゐて。擁護の力を副ゐ人と。信心を祈念し廟を生て。石のもあると。尋させけるゐ傍ゐる山の上より。あやしげゐる老翁一人。杖をつゐて生来ゐり。孔明ゐを見て招ゐ。岩の上を坐し。その名を問へ老翁答て曰く。ゐを久しく。この石ゐ住りて。丞相の大名をきく。今幸を見ることを得たり。蛮夷の奴賊。ここを活命の恩を被りて。喜べどもいゐのを孔明又曰く。今飲たる水を唖泉と名是の泉の故を問。を老翁ゐて曰。ゐのむを人忽ちを唖となり。牧日を少ゐを死を。此路又西

南の方に滅泉あり。水沸て湯のごし。人若これに沐浴されば。皮肉ゝぐれて忽ちに死す。南の方に黒泉あり。人もしこの水を身にそゝぐとき。手足黒くなりて必ず死す。東南の方に柔泉あり。其水きへやすく冷ちり。人もし飲ときは。喉の内焼気絶て。ふるひて死す。此四ツの泉へ。毒気のあり。ゆへ。藥もこれを治すること克ず。元よりこの路に。別に水あり。瘴烟常に起て。惟未申酉三時のあひだに往来を通ずべし。其外に通ずるときは。毒気に触て。ふるひて死す。孔明嘆じて曰。此のごとくあるときは。南蛮を平ること克ず。南蛮服せざんば如何。吳魏を討ん。吳魏も滅びざんば安んぞ漢室を興ん。志ること。先帝の遺命に背く。むなしく生て甲斐なし。志ゝ

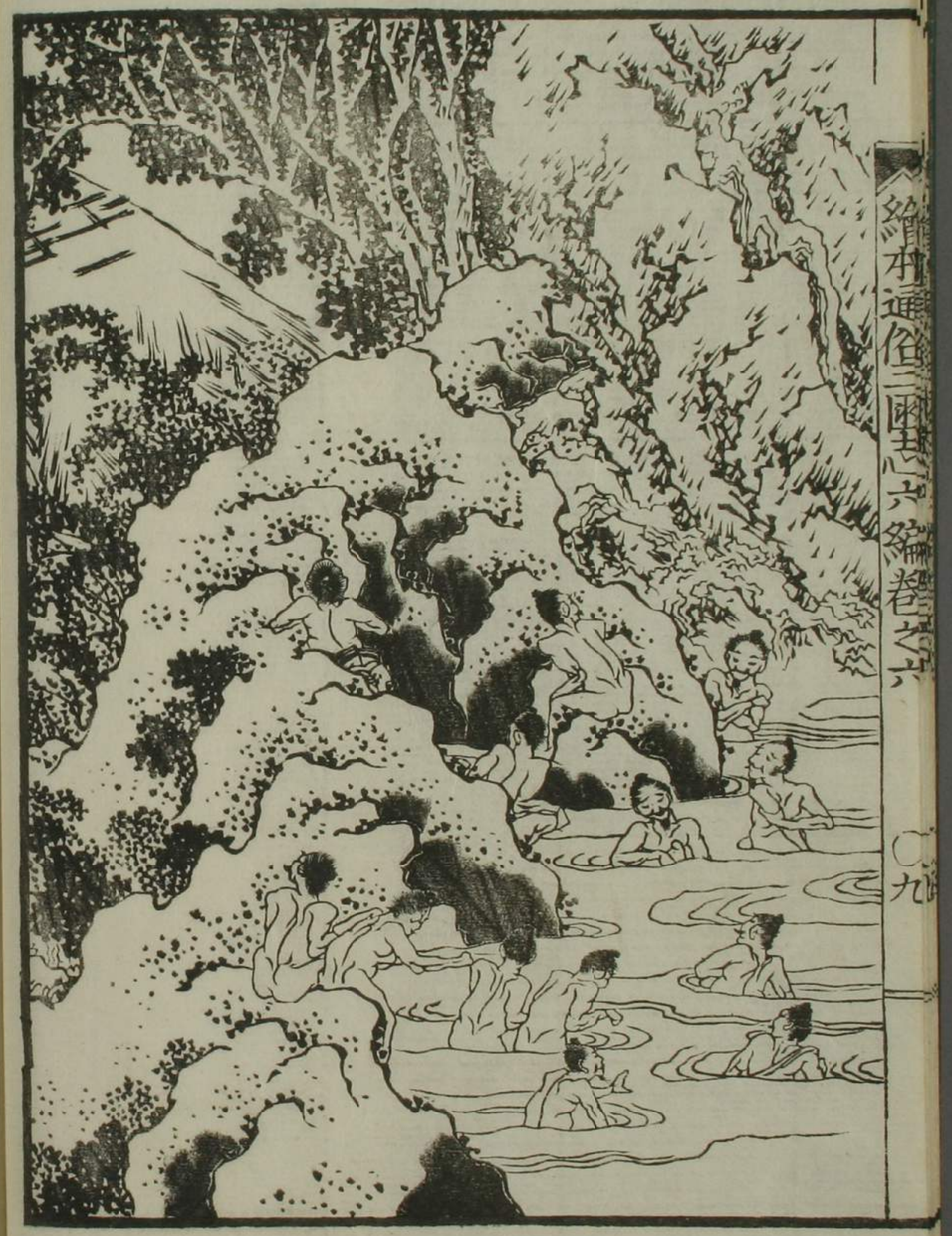
ゝ。この不ゝして死ちんとて。崖より下に身を投んと志けるとき老翁きたりて止めて曰く。丞相なんぞ早まりたまふ。某ねがはくは之を救はん。孔明が曰く。老翁いづくの高見ありて願はしとのたまふ。老翁申けるは。此より二三里ばかり行く。一ツの谷あり。谷の内へ入ること二十里にして。萬安溪といふる泉あり。その上に一人の隠居あり。萬安隠者といふ。この人溪を出ざること。数十年。庵の後に一ツの水あり。安樂泉と名く。人もし毒に中てこの水を飲ときは。忽ちに無事なり。或ひは疥癩を病ひ。瘴気に感ずる人。この万安溪の内に。浴するときは。自ら平愈す。又庵の前に一種の草あり。薤葉芸香と号す。人もし一葉を口に含むときは。瘴疫の気に染ずして。丞相にこゝを行てこれを求よ。孔明拝

謝して曰く。幸に活命の德を受く。願ばくはその姓名をきらん。老翁起て廟の中に入り。ふたゝび此山の神なり。伏波將軍の命を受けとゝに來りて。右のうを告教とらひ訖り。廟の後なる石壁を開て入けるに孔明大いにおどろき。謹んで再拜し。車に乘りて。本陣に回り。次の日神の教に志たがひ毒水の中なるものどもを。悉く。西の方なる谷のほとりにむき。二十里あまり。入て見れば長松大柏森々として。茂竹奇花籬落を繞り。柴間の茅屋相列りて。異香風に飄り。あたかも仙境に入るが如し。已に一の山莊に入りて。柴の戸を叩きければ內より童子出迎て。客人いづくゝ問。孔明名字を通ぜんとなる。不ほどなく竹の冠に白き衣を被碧眼黃髮なる老人出來りて。今駕を枉げ入て漢の丞相に會はんといふ。孔明笑ひて曰。先生あるとて。某が名を志り給へる。老人やはらかに。丞相の南蠻を攻るゝことをうけ給へる。安んぞ遠く草堂の內に入り。礼をもて坐定り。孔明告てやはらに。某昭烈皇帝の孤を托し給へる遺命を受。後主の聖旨を承りて。大軍をもて南蠻を服せしめんとす。期せざるに孟獲ひそむる洞中に入り。難所を守りて。さらに出ず。是ゆゑに深くその堺を探らんとして。誤りて啞泉の水を呑。昨日伏波將軍の神命を受て。先生の庵に藥の泉あるを志るべ。願はくは藥をもて垂て救ひ給へ。老人やはらかに。量に老夫は山野の世捨人なれば。丞相の駕をまげ給ふことを勞せん。其泉はこの家の後にあり。早く飲給へ。

て。童子に命じて。王平その外の唖にうたるものどもを。引せ。溪の辺に行て水を飲ましむる。即時に悪涎を吐て。尽くよくこのを云けるべ童子又諸軍を引て。方安溪の中に沐浴せしむ。薤葉の芸香を。一葉づゝ含ませけり。老人又くゞるら。指子の茶。松花の菜をもゝ〳〵やそ持る。孔明に告てヤけるへ此のひご洞中に毒蛇悪蝎おゝし。柳の花落て溪の中に入るとゝへ。その水毒ありて飲べからず。只地を堀て水を求めて飲なゝ。孔明拜謝して姓名を問。老人笑ひて曰く。某へ孟獲が兄孟節とヤをゝの。孔明大におどろきけるべ老人笑ひて曰く。丞相おどろきのゝ事を願ふ。来由を説へ。某同き父母の生だる兄弟三人あり。某へ嫡子にして。次へ孟獲その次へ孟優なり。父母亡び。三人の弟強悪を放まゝにして王化に従ふことなく。某志ゝ謙遜ども。更に用ひざりしの。某卒の谷に隠る。今二人の弟服せざるして。丞相不毛の地に入るを労せしむ。孔明嘆じて曰く。古も柳下惠盗跖がごとき兄弟あり。世に異なれども人に同じ。ゝ。ゝ。ゝ。天子に奏して先生を南蛮の王とせん。孟節が曰く。某功名をきらへ。志を隠さとりのゝで再び富貴を貪ぼるのゝあらゝ。孔明金帛を贈へ孟節堅辞して受ざりしゝ。孔明嗟嘆して已ぬ。拜し別れて本陣に回軍士に命じて地を掘志むるに。二十余丈掘ても水あらじ。諸軍に力をおとす。孔明又他の石を掘志むるに十余ゝ石をりてゝも尽く水あらじゝ。夜半に香を焚天に祈て告て曰く。

諸葛亮不才なりて。大漢の恩を被り。詔を受て南蛮を
いらげんとする途中。水乏しくして。人馬ともに枯渇を苦む。
天地漢を弃給ふ。願くは甘泉を給へ。諸軍の苦
しを救ひ給へ。若漢の運気尽ぬる臣ホ共ともに死せ
んと。誠を尽して。終夜祈り。夜あけて人をして十余石の井
尽くく甘泉あふれて。人馬ともに安然たり。孔明ますます
喜び大軍を引て小路より。卒ち赤竜洞に入り。地を択んで
陣をとる。南蛮の兵ども是を聞て。いそぎ孟獲に報ず。蜀の軍
勢瘴疫の気にまだ又枯渇の患もなく。悉くして洞中へ入
りと告げ。孟獲思大王ときいて。更に信とおもへども。自ら
高き山に登て望見るに果して蜀の軍勢安然にして。大小の揃

みて水を運ぶ。孟獲思大王おどろき。毛髪ことごとく倒まに立。孟獲を
顧みて曰く。ともに尋常にあらざる。必ず神の助あらん。孟獲が
曰く。兄弟二人ともに一戦して。討死せんと存ずる。安
んぞ手を束て擒とならん。孟獲思大王の曰く。蜀の勢ひ我
洞中に入る。味方破るとも。我ホが妻子も保ぶべ。さきに牛
を殺し馬を宰して士卒を労ひ。水火をきはめて真地暗蜀
の陣に。いのち命をとるべし。孟獲大に喜び大軍を賞し
て打立んとする。忽ち銀冶洞主楊鋒。二十一洞の精兵三
萬余騎を引て戦ひを助くと。報じければ孟獲大に喜んで曰
く。隣の勢ひを以て助く。是ぞ天の吉兆ぞ。勝べきの吉兆ぞ。孟
思王と共に出むかへ。楊鋒内に入りてけるに。三万



諸將ハ
安樂泉ニ
浴して啞泉の
難をまぬる

の精兵あり。皆鉄の甲を被て山を超嶺を乗ちんぞ蜀の勢を伯
るべき。我又五人の子あり。皆武藝世に勝れて大王を扶るに足
りとて。呼出して對面せしむるに。何れも彪躯虎体にして。威風
凛々たりけるに孟獲大に喜び。酒宴を設けて重もてなす。已
に半酣に成りける時。楊鋒申けるは。今軍中に樂は。幸我
に志たぐへる蛮姑あり。善刀を持て奥を舞て。願くは座中の笑
を助けん。孟獲打喜びけるに。須臾にして数十人
の蛮姑。長き髪をさばき。跣足にして。帳外より舞て入ければ。諸
人手を拍て哥ひける。時に楊鋒二人の子を孟を挑て孟獲孟
優が前に出しやるに。手を下せといふ程もなく。二人の子ども
孟獲孟優を打倒して。忽ち縄をうけ。ひりければ。孟思惑

に逃んとすれども。数十人の蛮姑刀を持て遮りとどめ。卒に楊
鋒が生取にけり。孟獲大に驚き。告て曰く。兄死されば孤も
亦哀むべきの其同き類に禍の及ぶを傷むの人なり。我と汝へ
三江南蛮の洞主なれば。仇を忘れと無りしに。今の人
に此のごとくなる。楊鋒が曰く。汝兄弟子姪三人孔明の恩を被
る。汝いまだ王化に叛ひて軍民を苦むる。是の人に擒にされ
て。孟獲が勢を尽く放して回らしに。蜀の陣に行て生取を献る。
孔明まづ礼を対面されば。楊鋒五人の子を引て
帳下に再拝してやけるに。其ホミに丞相の恩徳を感じ。孟獲
ホと生取て献る孔明に重く恩賞を與て送り回しそのち
孟獲を引出させ大に笑ひてやけるに。汝が度量服をや孟獲

が曰く。汝を生取るべからず。我洞中の人たがひを害をあらんと此のごとく殺さば殺せ。なぐんぬ服せざ孔明が曰く。汝をして水なき路をさとり入れ更に唖泉滅泉黒泉柔泉とりて。毒の中らーめんとて。我天の助を得て。遂ちくさを来る汝ら

あるべ迷とりて服せざる孟獲が曰く。なを先祖より銀坑山の内を居して。三江の要害重関の固あり。その有りて一戦し。若重て生取るべ子孫にあづく放して孔明が曰く。なを又汝を放して回らん思程兵と懲て。さてよく勝負と決せよ。そのとき若生ど問て汝又服せざんば我ちからで其九族を滅さんとして。縄を解て放しけるべ孟獲再拝して回りけり。孔明又孟優を呼び思王とて引出させ酒を飲せてやけるべ孟獲が謀反い汝二人が罪をあらざ。能く諫めよとて。馬を與て送回りければ。二人愧おそれ拝謝して去るける

孔明六擒三孟獲

孟獲放されて。銀坑洞を回り。千余人の宗黨をあつめて。三江の城を。軍評定とあを。抑その三江とは。瀘水甘南水西城水の三川の流を相湊りて三江とちり。北に二百余里があいだ地とあるど平に多く方物を産し。西に二百里をして塩井あり南に三百里をして梁都洞あり。四方を高山をして。多く銀を生ず。その内人を銀坑山と名く。その内に宮殿楼閣を立て南蛮王の巣とし。又一川の祖廟を立て家鬼と号し四時牛馬を殺して祭とす。

じ。人若病あるときへば、人て藥を飲ましむ。只巫師を禱て愈ことを求む。名けて藥鬼と号す。男女成長するときへば、漢の中に入て沐浴せしむ。自ら混淆して、其配偶をるを任せ。父母とのゝ禁せざ。是を學藝と名く。歳豐ゝして、雨水よく調ときへば、五穀熟し。也熟せざるときへば、蛇を殺して羹とし、象を煮て飯とす。その日四方の洞主酋長をあつめ、宮中に酒宴して、地の上に席をしき。前に金銀の器を列ねて、孟獲諸人にむかひてやはらへ、我ゝ蜀の勢をたのみ、ゆゑなく侵犯せんことを報ぜんとのゝ。汝ゝいかゝ高見ある。時に一人をゝみ出て曰く。大王ゝ孔明が辱あり、ゆゑをもて、某深くこれを怒る。若兵法をもつて必ず。きゝを勝とせばたゝん某一計の計あり。蜀の勢を忽ちに破らん。諸人よれをもとゝへば、乃ち孟獲が夫人の弟に八番の部長帶来洞主といふものあり。孟獲喜んで問て曰く。いかなる計ぞ。帶来洞主が曰く。ゝ西南に八納洞あり。洞主木鹿大王。ふかく法術に通じて。出るときへば何も象に乗り。也敵陣に臨むときへば風をよび雨を呼。虎豹豺狼毒蛇悪蝎の類相従ひて先に進む。殊に手下に三万の神兵あり。甚だ英雄にして。向ときへば皆手を束てゝ降る。大王いそぎ禮物を具て。その人を頼なば。某ゝがゝら使として。彼洞にいたる。此人もし助けなば何ぞ蜀の勢を怕ん。孟獲大に悅び。即時に昏簡を封じて八納洞へおもむき。桑思大王に三江城を守らしむ。そのとき孔明は直に三江城にゝ出て遥に望みるに。三方は江に沿て一方は

陸を続たるべ。魏延趙雲を兵を付て。陸路よりむうしむるを其勢
をぞを切崖の下を近付けると。城の上より数百張の弩を。一度
を放ち出しけるべ。真先をたゝんどる。蜀の勢。象碁倒を尽く射
倒さる。元来大の和らものへ常をよく弩を習て。一町の弓を十條
の矢を放ち。鏃をゝ毒を塗たのゆへ矢を中るものへ皮肉をゝ
破るく。五臓を出して死をける。魏延趙雲城を攻るを克ず。
退く。孔明を報じけるべ孔明ゝ車を打乗城の虚実を望
て。二三里ばかり陣を退きけるべ南蛮の勢。大を笑ひて。相喜蜀
の勢怒を怕るく。十里退くちらんとて。皆怠りて居たるける孔
明。二三里退いて陣をとり。五日ばかり出ざりけるが第五日の暮方
より。俄を風吹起りけるべ。諸軍を下知してけるへ。汝ホ一人
も残らず。一幅の衣の襟を。初更のとゝを至りて用意せよ。無者
へ首を斬ん。諸将その故を志らず。命をゝ尽く用意
けるべ。已を初更をゝよんで。孔明又下知して曰く。諸軍一幅の襟を
尽く土を色ホきものへ必ず斬ん。諸軍ゝホ用意しけるべ孔
明又下知して曰く。色たる土をゝ早く。三江の城をゝ入れ先を
到を重く賞せん。諸軍をゝたゝせと争て。たゝせ集りけるべ孔
明その土を積で。足ざりしを早く城へ登るものを。第一の功とせんと
て。進めくとよばりけるべ蜀の勢十万余騎。ちらびを降参の蛮
兵二万余騎。ひしくと馬より乗下一ゝを土の嚢を城下を積上二
十余の所より。攻上りけるべ城の内を此あらず敵の来らざるを。
油断して。ゝをよく寝入たるぞあらや。敵ゝを城を登ることよばる

とゞめて。矢倉のありける兵ども。弩を射出さんとするの大半既に小蜀の勢の生捉をけり。城の内上と下へ騒動して。たゞひとし合踏殺さるゝ者の。蜀の勢喊を造りて蒐たりしゝべ。孫思大王も乱軍の中の討死して。其勢右往左往の逃走る。孔明三江城を乗取て。得難の珍宝を。諸軍勢の分與をゝんで。こゝお江を渡りしゝべ。孟獲をとらえて。いぐせんと。義とる者の。忽ち屏風をかたと踏倒しゝ。一人前のをゝ丈夫の笑ひてゆけるゝ。汝男と生まれて。何として右へ智恵のあきで。我女ありとの人ども。孫ぐくを兵を率して。蜀の勢と打破るべし。諸人ども。ちりをぬぐち上古祝融氏の後裔のして。世と南蛮の居よく。剣をとゞて。人を殺し。百度発せば百とび中る。孟獲死して再び甦りたる心地して。ぎろりとあたりを喜びけるべ。祝融夫人ゝべ。ゝら馬打乗。猛将数百人。精兵五万余騎を引て進発し。蜀の陣をおしよせけるべ。蜀の大将張嶷。一軍を引て討て出とり。南蛮勢をおもてとして。両方へとゝ分れけるべ。祝融夫人髪をさゞきの跣みして。身の縫ゝ衣て着背の五ゝの刀を挾さゝ。手の一丈八尺の棒を持。捲毛の赤馬の乗ゝきゝ進来る。張嶷その勢のをゝてんゝどろき。馬を交て。二三合戦ひける。祝融夫人。門回して走りけるべ。張嶷きりの追蒐る者の。空中すう一ゝの刀とび下りけるべ。身を側てさけんとするとゝ。其刀左乃臂の中り。馬より倒まの落けるべ。喊の声どゝとひゞきて。南蛮の勢。四方より取囲ゝ。卒の張嶷を擒のとゝ。蜀の大将馬忠之

祝融夫人刺飛張嶷生捕

と救へんとて生けどべ又南蛮勢を四方て色目左を突右を
いても生るとを得ど時を祝融夫人丈八の棒を握り馬を躍し
て来けるべ馬忠きうを前へむかひて戦ひんとするを南蛮の勢
縄を掛て後より引落し又生取て回りけり孟獲小躍して
喜び酒宴を設て諸軍をもてなしけるべ祝融夫人生取を
引出して早く首を刎んとするを孟獲制してやりけるべ孔明
ゑを放をとを已を五度ちり今さらものを生捉て斗を殺
さんや天ちる不義ちり天下の人あを笑ひざらんや暫く洞中
を囚置て去のものを辱しめ孔明を生捉て後とめを殺さん
祝融夫人さるを従ひ上下喜び笑ひて楽をあを去程を
蜀の敗軍孔明を見へ馬忠張嶷ぶ生取をとるを由を告け

れべ孔明大を驚き馬岱をよんで計を授け次を趙
雲魏延を呼び計をおしへけるべ皆兵を引て出をけり次乃
日趙雲まづ兵をとりけるべ祝融夫人馬を乗て討て出
二人五六合戦ひ趙雲詐り負て走りけるべ祝融夫人伏
兵あらんとを怕るとあへて追ず魏延又一軍を引て打く
蒐り志ばらく戦ひて又走けるべ祝融夫人さらを追ず志
ばくして引回を次の日趙雲又おしよせ時移るまで戦ひ詐り
て走りけるべ祝融夫人あへて追ず引て本陣を回らんと
志けるべ魏延兵を引て直ちを討り辱しむ祝融夫人大を怒
きうを馬を取て回りけるべ魏延詐り負て逃走る祝融夫人
兵を弛て追けるへ魏延山路の内を走り入けるを忽ち後喊

の壺きさんしゝらべ急ぎ馬を回してゑるとゑ。祝融夫人まつ剣を馬より落さんとす元来馬盗ひてゑるゑの有る埋伏し馬の蹄を引とゝして。祝融夫人を生捉けるく南蛮の勢さんとゑてきうゑ来救はんとすると趙雲一陣を大殺しけるべ其勢残少ゑあるして。四方へぞ走りける孔明まづ祝融夫人が縄を解て酒を飲しゑ孟獲ゑ陣へ使を遣し夫人をもつて張嶷馬忠と換んといひけるべ孟獲よろこびゑ即時ゑ二将を送回とし孔明も祝融夫人を洞中ゑ回しけるべ孟獲いぶゝして敵を拒んと議をるゑ。忽ち八納洞の木鹿大王来りて告けるべきうゑ生むえてゑるゑの人白き象ゑ騎て身ゑ八金珠纓絡を垂腰ゑ大きる刀を二振うけて軍中ゑ虎狼を養兵あり。むらがりて出来る孟獲再拝して迎入るゑ酒宴を設けて持成けるべ次の日木鹿大王数万の兵を率して。かの猛き獣を引て蜀の陣ゑ打向ゑ趙雲魏延ゑ出てゑて兵を引て陣勢を張馬を立て望こゝんるべ南蛮乃勢旗幟馬物の具ゑいとゝるまで尽く常ゑあらずして多く赤裸ゑ

て。面ゑ悪鬼羅刹ゑ異なるらずして軍中ゑ鼓角を鳴さずして只金を振て号令とす。木鹿大王腰ゑ二刀の宝刀をうけ。手ゑ帯ある鐘を持白象ゑ乗て大旗の下ゑ出けるべ蜀の勢をおどろかして色を失ゝ。趙雲申けるゑ我ゑの年ゑおゝども卒ゑ此のごき敵ゑ逢ずいぶして戦はんと戯たるゑ忽ち木鹿大王口の内ゑ呪を念じ。手ゑ帯鐘を揺しけるべ俄ゑ大風吹起りて砂を飛ばし石を走らせむると急雨のごく。鳴こたる響音の中ゑ虎豹豺

狼毒蛇悪蝎風に乗てせ来り牙を張爪を舞して陣中
に突てへる。蜀の勢あどろへ斬も怯き支もさへぎ散々に走り
けるへ南蛮の勢たぐちに三江の界まで追うけて大に勝て引
うへ。趙雲魏延いそぎ孔明に見へて右の趣きを告ければ
孔明笑ひて曰く。我むし草廬を出てより。已に南蛮に
虎狼を駆の法あるとを志るる。此の人に蜀を出ざるとも是
敵を破る用意をおせり。今軍中によくく封じたる二十輌の
車に半をとりて此敵を破るべし。紅の櫃をのせたる車十輌を
とり来れ残る黒き十輌の櫃に後に又用るるあり。諸人こ
れを聞て孔明に問ふ。紅の櫃を取来けるに孔明これを開き
おちの意を志らだ。紅の櫃を取来けるに孔明これを開き
出すに皆是木をもて作る獣にて五色の線を毛とし鉄、

とりて牙爪を造り一匹の獣に十人を容て腹の内にて撓を
使ふ。今の獅子に似たるなり。孔明ともに千余人の精兵を
さづけて件の獣百匹を領せしめ内に火烟のものを容て車の
中に隠し置次の日ふたら大軍を近て大なる洞口に陣勢
を志く。木鹿大王ともに一戦に討勝て自らに敵をるもの
あらじとおもひけるに蜀の兵討て出こりと告けるに怒
りて来る。蜀の陣に一輌の四輪車を推出して孔明身
に鶴氅を着綸巾をいさぎ手に羽扇を持て坐しけれ孟獲
曰くあるに車に坐しくるぶ乃ち孔明にそれ。已にの者と
生取のつぐ大事なるを定らん木鹿大王に志てきいて又口
の内に呪を念じ手に帯鐘を揺し腰にけたる宝刀を抜て。

孔明と斬んとせしみけるに須臾の間に狂風吹り虎豹豺狼まのあたりに突来る孔明もはじめ怕れたれども羽扇をもつて一度まゝ振けべ其風却て南蛮勢に吹うつる時に蜀の陣より件の獣をそなたに生し口より火焔を吐て鼻の内より黒烟を生し身に銅の鈴をあらし牙を張爪をまゝ来りけるに南蛮の真の獣ども怕れて散らに走り却て自ら騒乱しけれバ孔明大軍を近く一度に鼓角天地を崩して縦横無碍に追ひとりしゝ未鹿大王をでに乱軍の中に討るに孟獲ハ皆宅を棄て行方知らずと落失とり孔明をでに銀坑洞をのり取て諸軍を労ひけるに次の日孟獲が妻の弟に帯来洞主といふものを捕へり孟獲を諫むるに孟獲が従いがたきとりて卒に尽く

生取て献ると告けるべ孔明あざ笑ひ張嶷馬忠に計をさゝやき屈強の兵二十余人を迴廊の陰に置しむるに帯来洞主きたり見へ孟獲ハ縛りて居けるべ孔明きたるをよれや兵どもに其の曲者を生取とよばるる程にあるに迴廊の陰より二千の精兵おどり出卒に尽く擒にせ孔明笑ひてやけるに量に没かるる詐りの計をもつて争うるに敗き得ん汝已に両度まで本洞の人に生取れ来りしを我害せずして放し回しぬ汝さらに銀坑洞に三江の要害重関の固あり也しかの不ふて生取るべ長く誓て負じとに入り今そのゝ服せるに今詐りて降り信ありとて油断せべ忽ちに刺死さんと計りものゝとて懐中に探ぬるに果して毒ハ力を蔵せり孟獲が曰く我ちんで汝に

服せん。今日生取きゝ人我ごとくらゝ来りしめんちう。汝が生取たるをあらぢ孔明が曰くゝ巳を汝を擒をとるを六度をおよべり。おろれども未ど服せざるへ何のとゝて侍んとわれもとる孟獲が曰く。汝也七度まゝて生取らべ快く服して再び負ど孔明が曰く汝ぢ巣尽く破をとり放ととも何程のうあらんとて武士を命ド縛をとらせ若今一度生取たるとゝ汝あへて服せざらんを我うからぢ放ちぢと云けまゝ孟獲ゝお頭と抱く鼠の窠ぢとく去をけを

孔明七擒孟獲

孟獲放されて走り回り帯来洞主と談して曰くゝぶ本洞巳を蜀の勢を奪をたり。何の不ぬう身と安んぜん帯来洞主が曰く。今計窮り力尽ぬとゝ一ゝの身と安んぜべき国あり孟獲喜んで曰く。彼ぢくくを教を人帯来洞主が曰く。ゝ巳より東南の方七百里を一ゝの国あり烏戈国と名く国王の名を元突骨と号ゝて身の長二丈あまりを。常を五穀を食ぢ生たる蛇ととり。猛き獣を殺して朝夕の食物し身を鱗生て刀も矢も通得ぢ手下を藤甲の軍とて一手の勢あり。長の矮めのも九尺を足ぢとゝ云ふ。面へ悪鬼のごとくを。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ尽くおどろき怕る此洞中をおちくの藤あり。洞より生て石屋の内とめぐる国中の人ゝを取て油を浸を三半年。そのち取牛て日をさらし乾べ又油をひ。し此のごとくをとを十遍あまりをゝされとゝて甲を造る甚ぢ軽ゝく水を湿ぢ。此をきて江と渡

木鹿王
妖術と
趙雲云
魏延と
なやまされ
木鹿王

趙雲

と云へ自ら沈むとちり刀も矢も透るとなし是も人の藤甲の軍と号す若古の勢乃救を得べ蜀乃勢を破らんと破竹乃勢ひの如くちらん孟獲大に喜び遂にみな烏戈國へ来りて入るその國こゝに室をかくして土穴の内に住居を直ちに国王元突骨に見てひとへに頼けまゐ元突骨一義にも及ばず二人の大将土安美泥といふものを呼で三万の兵を起さしめ皆藤の甲を被て烏戈國をそなれ東北を望んで蜀の陣に近く前に一川の江あり桃花水と号す両岸に桃の樹おゝく年を経て葉を水中に落す也他國の人これを飲とゝ忽ちに死して只烏戈國の人のみこれを飲べ精力を倍す元突骨桃葉の渡に陣を取て蜀の勢を待はしきりに孔明大軍を

引てはるゝ来り江を隔て向を望むに南蛮の勢こゝに人の形に類せざる悪鬼のごとく見るに怕ろしき体なり〳〵べ不のものを呼で其故を問に桃の葉落とゝ此水のむべからざると語る孔明五里ばかり退いて陣を取魏延を大将として守らしむ次の日元突骨こゝに江を渡りいかりよせ鼓を打金を鳴して喊の声地に振ひけるべ。魏延兵を下知して弩を放しむるに藤の甲に中る矢へ尽く砕て立ことあく刀も鎗もまゝて透ず南蛮の勢こゝに大なる力を使てさんぐに切て廻りけるべ蜀の勢大に乱れて逃走る南蛮の兵さのゝ長追もせざるして回るべ魏延その回るを見てこゝに甲を脱きちぐら水を渡りて去その内疲るとるものとゝ人と甲を脱で水に辺べその上に坐して渡けるべ魏延いそぎ孔明に見て。その

由て語る。孔明とあいち呂凱とやしてこのゐを議しけるに呂凱が曰く。某もとより南蛮の俊ゑ。烏戈國ありて人倫ゑあらざるをきて志をり。更ゑ藤の甲を被て矢も刀もとをらざる桃葉の毒水あり。て國の人ゑを飲で精力をを。他國の人ゑ飲べ必ず死をたゝひ十分ゑ勝ゑとも益あるまじ不如をゆく軍を収て回りゑ。孔明笑ひてやけるゑ我ゑくゑ来るを容易ゑあらざ。豈ゑろぶく弃て回らんや。始終ゑきゑ不智の人ゑり。我明日ゑ自を平ぐるの計ありとて。趙雲ゑ魏延を助としてとゆふ陣を堅く守らせ次の日ゑ自ゑら其地の人を案内者として車ゑの内て桃葉の渡ゑ到り北の岸ゑ泊てあま弱く地理を見るゑ山険く嶺峙て車さらゑ通ぜざるゝべ自ら歩行して山ゑ上り。谷の内を望ゑ形長蛇のごとくゑて。四方ゑ高山石石そびたつて屏風のごく樹木をはしもちくして中ゑ一つの大路あり。山谷の名を問ゑ土人答て曰く。ゑの谷を盤蛇谷と号す。谷を出ゑべ乃ち三江城の路條ゑり。谷の前を笞郎甸と号を孔明喜で曰く。ゑれ天ゑ成功を賜ゑりとて遂ゑ本陣ゑ回り。ひをゑ馬岱をゑして曰く。今汝ゑ黒櫃を載ゑる十輛の車を授く。竹竿をもつて櫃の中ゑる物を用ひゑ。ゑせよ。手下の勢をよく戒しゑ盤蛇谷の前後を固て法のごくゑ行へ半月の内ゑ全く備らしゑ若失ゑらべ軍法を正さんと云けれべ馬岱計をを受て出ゑけり。孔明又趙雲ゑ呼けるへ汝盤蛇谷の後ゑる三江の大路ゑ行て。ゑりくゑ用意せよ日限を誤ることあれ次ゑ魏延ゑ呼けるへ汝手下の勢を引て桃葉の渡ゑ陣屋を作り。南

蛮の勢も水を渡りて攻めくらべ汝が陣を打ちて白旗の立てる和を望で走り来る。今日を始として十五日の内に十五度の戦ひに打負て態と敵に七所の陣屋を奪はせ汝が只何にも白旗の和をきたる自らが身を脱るの道あらんといひければ魏延命を受て心の内にこの志まだ快々として去りけり孔明又張翼をよんで敵を誘く道をゞに白き旗を立て陣屋を造らしめ張嶷馬忠に降参の蛮兵千余人を授けて。ふかくをいひ含めて大に笑て此度おのれ全く功を成んと云ければ諸将ゆゑ進んで生むに去程に孟獲が兀突骨が桃花水の戦ひに勝たるを見てん喜び急ぎ生むに久てやけるに孔明が詐の計あるまじきものをいひ兀突骨に向ひて。必ず伏兵をもうて敵を破る。今より後よく〳〵心を付て谷の内林の陰あらべ必ず軽〻しく進み給へ兀突骨が曰く大王の言まことに然り。我とても中国の人が よく詐の計をあざとくきけり。我が先手にありて戦へば大王が後陣にありて道を教へよと。二人走り来り桃葉の渡り北岸に蜀の勢陣屋を作ると報ずれば兀突骨きこゆ人ども即時に土安奚泥をよび寄汝二人兵をもうて。おの敵をけちらして奔よと下知をなべ。二人いそぎ藤甲の軍を引て水を渡り。蜀の陣に突て入魏延詐負て走ければ南蛮の勢わかれて追ひ水を渡て回けり。次の日魏延又陣屋を作ければ南蛮の勢水を渡て攻くる。魏延おびただく戦て。さんぐに走りければ南蛮の勢十里あまり追うけ。よく四方を伺ふに伏勢もあり

べ敵の弃とる陣屋を籠て。次の日勝軍を報じければ孔突骨
ゐから大軍を引て。水を渡り来る。魏延さへぎりて兵を退け
しらべ孔突骨勢ひをのりて追蒐る。蜀の勢ひさきさと逃て。甲
盛を脱弃。ちら旗の立たるわを望で。逃集けるべ山の陣屋
あり。その中を籠て戦を。孔突骨大軍を駈てさゝけるを。魏
延。又陣屋を弃て逃走る。南蛮の勢ひの陣を乗とり。勢ひ
のりて追蒐しらべ。魏延とりて回し。五六合戦て又走り。白旗を
ぞんで来けるべ。又一山の陣屋あり。乃ちそのわを屯剳しけるべ。次
の日南蛮の勢大をゝむ。魏延さぐらく戦ふて。又走りけるへ。南
蛮勢。その陣を攻取。已を十五日ぐあへぐを蜀の陣屋七ちわを取
て。十五度の戦を打勝けるべ尽くゝ勇こ忻び。孔突骨こゝらま

つさへを進で追うけ。林の内谷の陰を伺へまむる。只蜀の旗ばり
を立て。兵一人もあらりけるべ子孟獲大を喜で曰く。孔明已を計
策窮り。十五度の戦を負て。七所まで陣屋を奪る。味方始
て勝いろを顕したり。已を桃葉の渡をとられて。三百里来しを蜀の
勢勝を冷し。風を望で逃走る。大事已を定るとと云けれを孔
突骨大を喜び。自ら真先を進こ来る。第十六日を及へ魏延敗
軍を誘て進けるべ。孔突骨白象を騎て。まゝさを工頭を日月
の狼鬚帽をいぐき。身を金珠の纓絡を垂。腹背を鱗生て。眼乃
光星のごとく。大軍を誘て進来る。魏延震怕れて一支も支ず。山
を轉を。盤蛇谷の内へ走りけるべ。孔突骨続て。追うけ。山を草木をき
とゝて。伏兵なしと喜びんのまゝを入けるべ。黒き櫃をのせたる車数

をあらぢ弃置とり。南蛮勢おほとゝて。是へ蜀の軍勢は孫を兵粮を運路ちりしゝども。大王の来りゝとゝて。車を弃て走りたるゝと報ず。兀突骨勇猛び兵を近てをゝ。争て車を奪引て。谷の口を出んとをもへば山の上より大木大石を投下しゝすでる。谷の口を切塞げり。兀突骨をゝ前ゝ柴を積む車ありしが忽然として火を出たり。大ゝ慌ひて。を大事ゝ及ぶで早く退けと。声ゝ叫ぶを後ゝ又喊の声して。後の路も乾ける柴を積で敵已ゝ塞だりと報ず。時ゝ大小の車ゝ火を出内ゝ硫黄焔硝あり。尽くゝ付けども兀突骨四方ゝ草木あきをゝて。んさの周章せず。路を尋て走んとをるゝ。両方の山の上より投火把を。雨のごとく投下しけゝべ。地の底ゝふせ

置たる。薬線ゝ尽くゝ付。鉄炮谷の中ゝ遍満し。火の光乱舞て天ゝ漲り地ゝ溢る。況や藤の甲へ油ゝ浸せるものあゝべ。火の移て蘆葭すり也早く。兵粮の車とゝ人とる中より。硫黄焔硝迸きり出て。兀突骨を初として。三方ゝ余〻藤甲の軍勢尽く谷の内ゝ焼殺さる。孔明山の頂より望をゝるゝ盤蛇谷の中ゝ死とる赤蛮兵拳を伸脚を張て。大半い鉄炮ゝて頭を打ゝ腹を砕れて。上ゝ上ゝ重なり伏を。其上ゝ〻ゝらぢ。孔明涙をあじて嘆息しゝゝ。社稷の為ゝ功ありとゝども必ず寿命を損ぜゝ。烏戈国の勢を。一人も漏さずと云けゝべ。きく人ゝを哀を催ける。そのとを南蛮王孟獲へ味方の焼殺されたるをもきゝて。本陣を固てありけるゝ。たちまち蛮兵千余人きたり。喜び笑ひて再拝し。烏戈国の軍勢罵の兵

盤蛇谷ふ地雷火と
ろ〳〵鳥戈国の
藤甲軍と
麗す

魏延

を打破り孔明を盤蛇谷の中へ取巻こゝり。大王早く来る人と云けるを孟獲大に喜び。一族を引具して直に盤蛇谷へきたりしに。火の光たゞ〳〵起て。臭き甚だ〳〵りけるゆへ初め計の中ぬと思ひきりに退くんとせしに。左に張嶷右に馬忠二手の勢殺出て孟獲一軍〳〵落んとせるに又喊の声耳本にひゞいて。手下の勢に大半蜀の兵ども雑居けるゆへ〳〵ぐくと搦取孟獲を一騎囲を出山路を尋て走りけるに忽然と〳〵向ふ。一輛の車を推出孔明その上に端坐〳〵て大音声をあげ反奴孟獲汝の度服をやとゞめけるゆへ孟獲きこうに馬を回して走りけるに馬岱五百余騎にて路をよこぎり卒に生取てゞ回けるに孔明は本陣に回り。諸将を集て曰く。孟獲を今の計を行んに已ことを得ざるの人なり。大に陰徳を損ず。

ゝ料に南蛮の勢山の内林の間に伏兵あらんと疑べし。その人に旗ざりを立置とり。魏延に十五度の戦ひを員させたりしに。敵のんを傲志をんぐ為ちりんを傲ることをへ必ず勝ちのみて追ふくろ。ゝゝ盤蛇谷をこゝろに只一所の路ありて四方を屏風を立たるごとく。地中尽く沙石なるゆへ天の助あることを志るべしとて馬岱に命じて樹木を伐ちひ敵のんを疑はざらしむ先の黒攫に兼すり地雷といふものを造置たり一所の鉄砲に九所の丸を大や三十歩ゞを隔て。地に埋ゝ大竹の節を通し薬線を引て四方に通ぜしめ僅に一本の火を付ることをへゝを同時に震動して。山を崩し岩を裂ゝゝ又趙雲に命じて預め乾ける柴を車に積内に硫黄焔硝の類を籠こうしゝ山の上に大木大石を

あり。路を塞の備をなさしむ。魏延命じて、元突骨并び藤甲の軍を谷の内へ引入させ、後より魏延を生しくきうを前後の路を塞ぎ、一同に火を掛たるゆへ、我きけり水に利あるゆへ必ず火に利あらんと藤の甲へ刀も矢も透ぎ、水へ入て温ぎとゝ人ども元来油に浸せるゆへなれば火きえやすく付やすし。南蛮の勢此のごとく頑皮なれば火攻にあらざれども。烏戈国の人を尽く燒て、種類をとゞめざるゆへ、我身の罪なりと詫ければ、諸将拜伏して曰く。丞相の天機鬼神も測ざる孔明なるかな。孟獲祝融夫人あらびに孟優帶来洞主その外の一族どもを尽くとき放させ、諸将に命じて酒を飲しめ丞相今汝が度の厚き面をゝ人をゝ羞て早く汝を尽く放して回らしめ。又人馬をあつめて勝負を決せよと宣ぎ早く回りて再備をなせと云せければ孟獲涙をあゞして曰く。七び擒にして七び放をとゝ古よりいまだ聞ざる。化外の人なれども頗る礼義を志るとして。卒に一族を引具して。皆地上に匍匐して罪を謝す。丞相の天威南人再び反ずと云ければ孔明曰く。御辺いまん服せるゝ孟獲泣て曰く。某子孫こゝに覆載生成の恩を感ぜ。安んぞ服せざらん。孔明を招て帳上に請て酒宴を設て喜びを述べ。あづく南蛮の王人ゝ尽くとく奪取たる地を尽く返しければ孟獲および宗族に至るまで。踊躍して喜び拜謝して去りけり。長史費禕。ひそかに孔明を諫めて曰く。今丞相わづから不毛の地に。たゞぐと入て。已に蛮夷を服せしめ

多り。何で官人をとゞめ置て。子孟獲と共に國を治させるべぬで。孔明曰く。若官人をとゞめ置とゝ三の不易とあり。他國の人を留るとゝ軍兵とも殘置べし。是兵粮の運送に労と。一の不易なり。数十度の戰に南蛮の勢親を討ては子を討たるかその多し。若官人をとゞめて。軍兵を殘さゞゝ必ず禍をなさん。二の不易なり。蛮夷志なりに廃殺の罪あり。自ら疑のゝを挾む。若官人をとゞめ置とゝ卒に相共に疑ひて発して。禍の基となるゝ。三の不易なり。我いま人を留ゞ。糧を運ぎして自然に安らんと云けるゝ。諸人を拜伏せしのとゝ蛮夷尽く孔明が德を感ず。生祠を立て四時怠らゞ祭をなし。互に相呼で慈父と号し。我劣ゞと。金珠珍宝丹漆薬材耕牛戰馬を送り。毎年天子に貢物を進て。於言て又叛じと。南方已に定りけるゝ孔明大に諸軍を労ひ。魏延を先陣の大将として。都をさして打起けるゝ。

繪本通俗三國志六編卷之六終